

(2) 水道用水

上水道整備の経緯

吉野川流域で最も早く水道が敷設されたのは、明治41年3月に通水を開始した池田町でした。水源は字島山谷に堰堤を設けて渓流取水し、給水人口6,000人、一日最大給水量540m³とする計画でした。

吉野川の水が上水道の水源になったのは、大正15年9月1日より給水を開始した徳島市上水道が最初で、当時は名西郡藍畑村字第十で堤内の伏流水を取水しました。

創設時の給水計画は、給水人口80,000人、一日最大給水量8,800m³(一人一日最大給水量111ℓ、平均給水量78ℓ)でした。

以後、第一期、第二期、第三期、第四期と拡張事業が進められ、昭和53年に完成した第三期の拡張事業で初めて吉野川本川の表流水が取水され供給されています。

他では、昭和7年5月に鳴門市が板野郡北島村高房地先の旧吉野川に水源を持つ上水道(一日最大給水量2,640m³)を通水しています。

戦前の吉野川流域においては、徳島・鳴門両市の市街地を除けば、ほとんどの市町村は湧水や井戸水に依存していた状況でした。

戦後になると各地で水道建設の要望が高まり、昭和32年以降、地下水、河川水を水源とする水道事業が普及してきています。

上水道施設 水道事業の概要

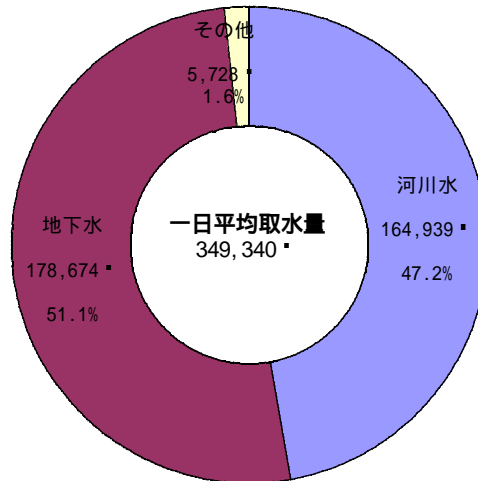
事業 主体名	上水道 施設・年度	給水人口 (人)	一日最大 給水量 (m ³)	左の内訳		
				河川水	地下水	その他
池田町	M 4 1 . 3	12,500	8,750	7,250	1,500	0
徳島市	T 1 5 . 9	297,000	193,900	124,400	54,500	0
鳴門市	S 7 . 5	75,000	55,500	55,500	0	0
脇町	S 3 2 . 3	14,000	10,500	0	10,500	0
松茂町	S 3 5 . 1 2	18,000	11,700	11,700	0	0
北島町	S 3 6 . 3	20,500	13,100	13,100	0	0
山川町	S 3 6 . 3	13,000	9,100	0	9,100	0
穴吹町	S 3 7 . 1 1	6,400	3,340	0	3,340	0
阿波町	S 3 8 . 1 2	15,000	10,000	720	9,280	0
藍住町	S 4 1 . 3	35,000	21,000	0	21,000	0
市場町	S 4 1 . 3	12,500	8,500	0	8,500	0
土成町	S 4 3 . 2	8,300	7,000	7,000	0	0
上板町	S 4 5 . 9	13,000	7,800	0	7,800	0
吉野町	S 4 6 . 3	10,000	7,700	347	7,353	0
美馬町	S 4 7 . 5	9,300	5,580	3,855	1,725	0
石井町	S 4 8 . 3	28,700	15,000	0	0	15,000
鴨島町	S 4 9 . 3	30,000	13,500	0	13,500	0
川島町	S 4 9 . 3	11,000	7,150	0	7,150	0
貞光町	S 4 9 . 6	7,000	3,500	0	3,500	0
半田町	S 5 2 . 3	5,100	3,315	0	3,315	0

(注) 1. ここに記載してある事項は、上水道事業の基本計画である。

水源の種類

ア 水道用水の水源としては、大きく分けて河川水と地下水がありますが、徳島県の場合は平成11年度末現在、一日平均取水量349,340 m³に対し、河川水約47%、地下水51%となっています。

平成11年度水源比率



出典先：徳島県資料

イ 地下水からの取水は、過剰揚水により昭和40年頃から吉野川下流域の地下水が塩水化し、徳島市、松茂町、北島町などが河川水に転換されています。

吉野川下流域の塩水化に伴う上水道水源地廃止状況 (徳島市上水道)

川内町中島水源地	昭和41年10月
川内町鈴江水源地	昭和45年11月
川内町榎瀬水源地	昭和49年7月
応神町小島水源地	昭和52年1月
応神町吉成水源地	昭和52年7月
応神町古川水源地	昭和55年8月

(松茂町上水道)

広島水源地	昭和47年7月
-------	---------

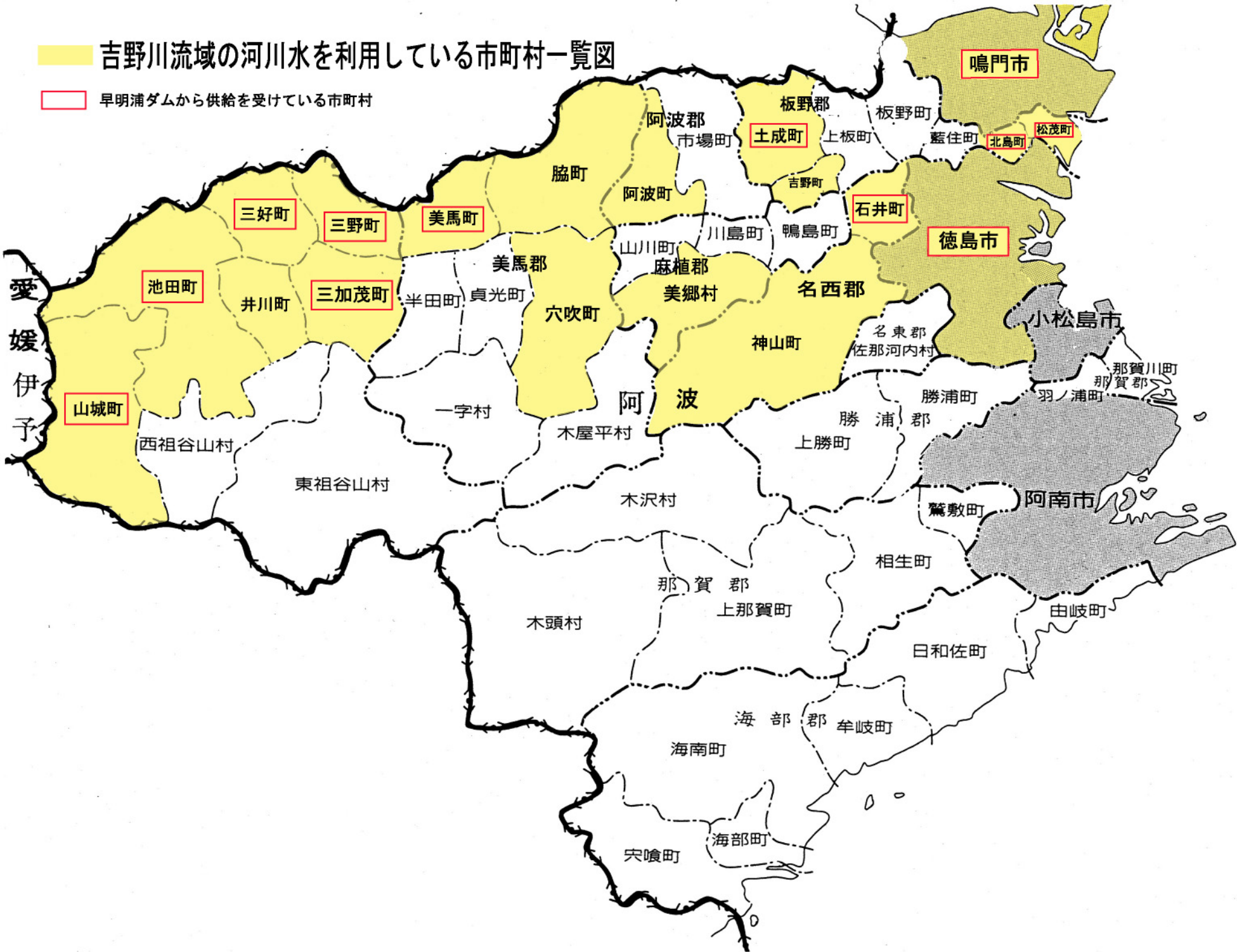
(北島町上水道)

2号・5号井	昭和60年3月
1号・3号・4号井	昭和62年12月

ウ 徳島県内で吉野川流域の河川水を水道用水として利用している市町村は、徳島市外18市町村、また早明浦ダムから供給を受けている市町村は、徳島市外11市町村あります。

吉野川流域の河川水を利用している市町村一覧図

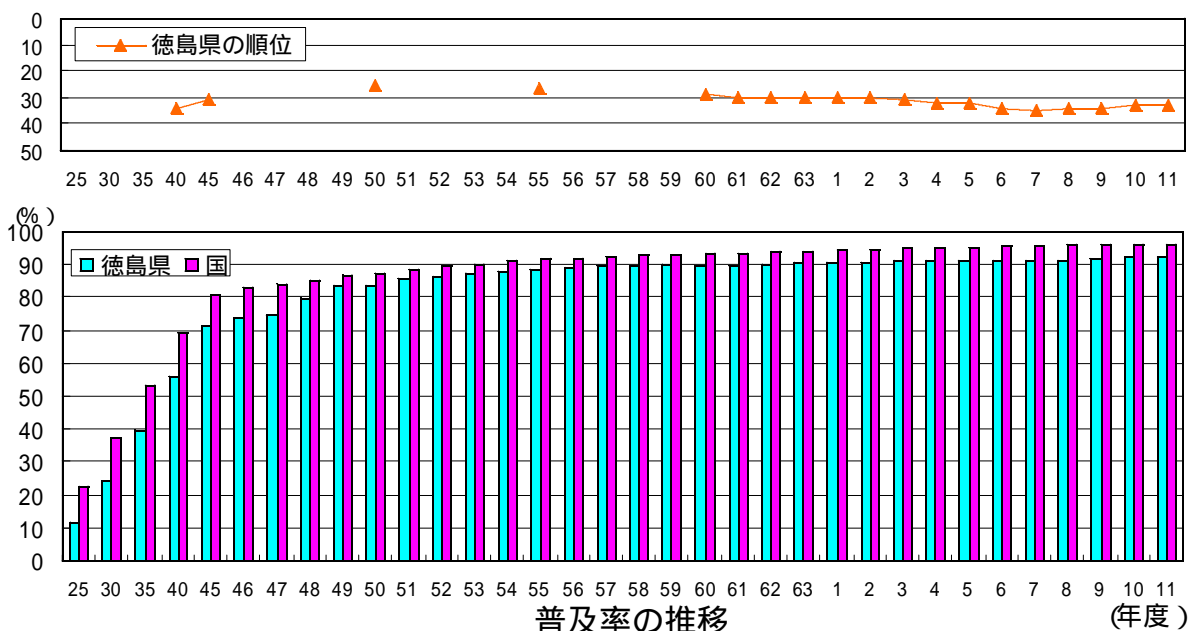
早明浦ダムから供給を受けている市町村



愛媛伊予

水道普及の状況及び一人当たり使用量の状況

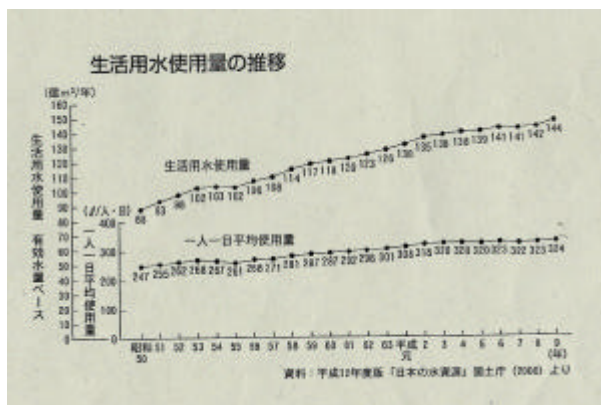
徳島県内の水道普及率は、平成11年度末で92.5%となっており、全国平均の96.4%よりも低く、47都道府県中33位となっています。



出典先：徳島県資料より作成

一般家庭が使用する家庭用水は、水道用水の大部分を占めています。水道は昭和30年代から昭和40年代にかけて急速に普及し、全国レベルで見ると、昭和53年には普及率が90%を超えています。県で見ると昭和62年に普及率が90%を超えています。

家庭用水使用量を給水人口で除した「一人一日平均使用量」の全国における平成9年の使用量は324ℓ/人・日で、これは昭和50年の247ℓ/人・日に比べて、約1.3倍の伸びとなっています。



なお、徳島市の場合は、平成10年度の一人一日平均使用量は330ℓ/人・日、昭和55年の230ℓ/人・日に比べると1.4倍の伸びとなっています。

この増加の原因は、核家族化、水洗トイレ、全自動洗濯機の普及、生活スタイルの変化(朝シャン)等が考えられます。

また、昔のように井戸から水を汲むなどしていたことがなくなり、水道の普及により、苦勞しなくても簡単に水が利用できるようになったことも一因と思われます。

水道用水取水施設

北島町



鳴門市



徳島市（第4水源）

